

# 世界平和の祈りの運動精神

五井昌久

## 個人と人類とのつながり

この人間世界は、病氣と貧乏と争いとがなかったらどんなに良いであろう、とは誰でも思うことでありましょう。まして、自分や自分の周囲の者が、病氣をし貧乏をし、争いごとでみちていた、という経験をもっている人は、殊更に強くこうした悪いことの無い世界を願うに違いありません。

過去の聖者賢者たちは、老病貧苦をこの世からもあの世からも、すっかり消し去ってしまいたい、という深い願いをもって、世の指導者となったのであります。

愛深い人々は、そうした人類の苦悩を和らげる為に役立つことを願って、或る人は医者に、或る人は広い意味の科学者に、或るいは社会運動家として、その身を挺身ていしんしてゆくのであります。

実際に今日のように、地球が狭く感じられることは過去の時代にはなかったことです。米国の出来事が同時に、日本においても見聞きできるというテレビの発達、航空機による旅行時間の短縮等々、他国のことが我がごとのように感じられる程、距離や時間が短かくなってきているのです。私共の感覚の上で確かに地球は狭くなったのであり、他国と自国との距たたりが縮められていっているのです。

それは善いことの上にも、悪いことの上にも、実現されているのであります。文明文化の速やかなる交流、これは喜ぶべきことでありますが、他国において行なわれたる核爆弾の実験による放射能は、直ちに我が国にもその影響を及ぼしてくるのであり、他国の伝染病なども、すぐに我が国をおびやかすことになるのです。まして、密接なる関係をもつ米国内の出来事は、我が国の経済状態に微妙な影響を与えるのであります。

## 心の世界もみなつながっている

それは、あたかも太平洋の水が、日本と米国とを一つに結んでいると同じように、空においても、想念波動の世界においても、世界は全く一つにつながっているのです。

病氣や貧乏は個人的なものであり、争いごとの大きなもの、つまり戦争は、国家的なものであるのだ、と思っている人もあると思いますが、病氣や貧乏も、只単なる個人的なものではなくて、社会国家人類という、大きな集団の影響下にその原因が起り得る、ということがあるのですし、それを直し得る力も、大きな集団の力によって為し得るものなのです。

今日の生活は、個人と国家や人類とが密接不離なる関係をもっておりまして、個人はもはや、単なる個人ではなく、大きな集団の一つの単位としての個人なのであります。

ですから愛深い人々は、常に個々人を通し、集団集団を通して、全人類の為の奉仕にその一生を捧げつくしているわけなのです。それが宗教の面においてであろうと、科学の面であろうと、政治の面においてであろうと、その根柢こんていは等しく人類愛の心によって為されているのであります。

海の水がつながっていることや、空が一つであることなどは、すぐに理解できるが、想念波動がつながっているということはどういうことか、という問いがでてくると思います。

ところがこの想念波動の問題を知ることこそ、世界平和を実現する最も大事なことであります。想念波動の伝わりということとは、音波や電波や光波によってテレビやラジオやテレフォンで、お互いの声を聞き、他国の人の姿をみることでできるといふ科学の原理と同じなのです。想念波動とは電波や光波や音波よりも、もっと微妙な精神宇宙子の波動なのであります。

これは私たちが現在研究中の宇宙子科学の原理によってよく判ることなのですが、まだ一般の知識としては、この精神宇宙子のことは判っておりませんので、電波や音波光波よりもっと微妙な波動とだけ思っていただけばよいでしょう。

この微妙な波動が、人類すべての思い思いの波動となって、世界中を空気の波のように無限の層となって蔽いつくしているのです。その波動は、争いに充ちたものもあり、妬ねたみに充ちたものもあり、病苦、貧苦に充ちたものもあり、恨うらみや怒りに充ちたものもあります。またそうした暗い汚れた想念波動でない、明るい愛に充ちた、善意に充ちた光明そのものの波動もあるのであります。

こうした想念波動の渦は、それぞれがエネルギーでありまして、そのエネルギーは人間の肉体に働きかけて、人間にその想念波動の通りの行為をなさしめるのです。電気的エネルギーが流れ出せば、電流となってモーターを動かし得ると同じように、想念波動のエネルギーも、人間の肉体を動かし得るのです。

そして、その想念波動が争いや妬みの暗い汚れたものであれば、働きかけられた人間はそういう行為をするのであり、愛や善意の光明波動であれば、愛の行為になつてくるのであります。

人間の肉体というものは、肉眼で見、肉の手で触れば固まった一定した形をもつたもので、口から入らなければ外部のものが入り込んでくることはないようにみえますが、実は常に外部から眼に見えぬ種々な要素が入ってきているのです。

眼から耳からは、映像として文字として言葉として音として入り、放射能のようなものは体のいたるところから体内に沁み通ってきます。そのように、光線よりもっと微妙である想念の波動は、直接に脳髓に入りこんでくるのであり、神経系統のあらゆるところにも沁みこんでくるのです。

ですから、人類世界のすべての階層のそれぞれの想念波動に踊らされている状態でありまして、世界の指導者がみなこんな心の状態では、とても世界の平和など及びもつかないことなのであります。

軍備を増強して相手方を抑圧しようなどという考えのどこに、人類愛の想念があまりましようか、人間は生命において一つのものである、という人間本来の愛の心は、こうした差別心や不平等の想念からは、とても実行でき得るものではありません。こうした差別的な想念波動が、争いや恨みや憎悪に充ちているからなのであります。人間は本来神の分生命わけいのちで、悪や不幸の想念をもっていない存在者なのですが、神の分生命であることを忘れてしまった人々が、神の光明波動に自ら遠ざかってしまって、その光明波動の薄れたところから、真理を見失いはじめて、現在のような善と悪との混淆こんごうした世界をつくりあげてしまったのです。

この光明波動の薄れが、次第に暗黒化してきて、人間不信の争いや妬みや憎悪の感情想念が生まれ出で、地球最大の危機を迎えてしまったのであります。

は、各個人や集団のそれと合致した想念の渦をもつところに、絶え間なく入りこんできて、その人やその集団は、恨みなら恨み、怒りなら怒り、争いなら争い、情欲なら情欲の渦中からぬけ出せないようになってしまっているのであります。

### 人類愛欠如の原因

たまたまは愛の心や柔らかな想いが起つてきても、争いや恨みの暗い想念波動の渦うずまきが烈はげしすぎると、そうした善なる想念もたちまち流し去られて、その個人や集団はまた再び暗黒想念を出しつづけてしまうのであります。

それはちやうど、暴力団に入ってしまった少年が、これはいけないと気づいて、その仲間からぬけ出ようとしても、その団員たちの脅迫にあつて、どうしてもぬけ出せない、というのと同じようなものです。

世界各国の軍備態勢というものと同様なものでありまして、武力による力と力の均ひらこうによつてのみ平和が保たれる、という考えは、お互いの優位を保つ為ために、お互いが武力を増強させつづけなければならぬ、という悪循環をもたらし、何にもまして軍備に資金をついやすという状態になつてしまひ、それでいて、一日として安心していられる日のない、戦

### 想念波動の重大性

こうした危機を救うには一体どうしたらよいのでしょうか。どんな方法を用いたらよいのでしょうか。武力の増強をつづけてあくまで、力の均衝きんごうでやってゆけばよいのでしょうか、それではいつまでたつても、人類から戦争の恐怖は去ることはありません。去るところではなく、いつかは実際に世界大戦がはじまってしまうでしょう。

人間の心には、造つたものは使つてみたい、強めた力は試してみたい、という想いがあるのでして、いつか何かのはずみで、核兵器のボタンを押さないと限らないのであります。

私はここで、今まで申し上げてきた、想念波動の重大性ということについて、皆さんにじっくり考えていただきたいと思うのです。想念波動を浄化しきらない限り、世界は絶対に平和になることはない、ということですから。そして世界が平和にならない以上は、個人の平安はあり得ないということですから。

たとえ、病気が治つたとしても、貧乏から一時ぬけでたとしても、それだけで、その個人が平安になつたというわけにはゆきません。それは一時の平安でありまして、永遠の平安ではありません。

私は個人の平安と、世界人類との完全平和が、一つにつな

がってなされる、という方法を願いました。そして生まれ出たのが世界平和の祈りなのであります。

個人個人の体は、肉体としてはお互いが離れてるように見えますが、想念波動の世界ではお互いが結び合い交流し合っており、お互いに影響を及ぼしあっているのです。それは、親子兄弟とか、親戚知人とかいう間柄だけではなく、一人人の想念波動は一瞬一瞬の間にも地球上を巡<sup>めぐ</sup>っているのです。

ラジオやテレビに伝わってくる音波や光波は、絶え間なく大気中を流れているのでありますが、ラジオやテレビのスイッチをひねって電流を流し入れ、ダイヤルをそれぞれの音波や光波に合わせなければ、そこになんの音も聞えず、なんの映像も写ってこないのです。人間の想念波動も全くそれと同じでありまして、自己の出した波動が地球上を巡<sup>めぐ</sup>っていると同時に、すべての人間の想念波動は、自分の上に流れてきているのであります。ただ自己は、自己の意識、意識といっても表面に出ている顕在意識だけではなく、潜在している潜在意識を含めた想念波動の部分のダイヤルをひねっていることになるのです。

## 個人と人類が同時に救われなければ

そこで、人類すべての想念波動が自分の上に蔽<sup>おほ</sup>いかぶさってきているのですけれど、自己の廻<sup>まわ</sup>っているダイヤルの分だけ、自己の運命となって現われてくるのであります。これをいいかえますと、自己の出している想念が憎悪や争いの想念波動であれば、その想念波動は、同じような想念波動をもっている地球上の多くの人々の上に影響を及ぼしているのです。そして、この想念波動が、愛や善意の光明波動であれば、地球人の多くの人々は、その光明波動によって、知らぬ間に浄められているわけなのです。

この真理を考えますと、個人の想念行為は、自己にその報いが必ずやってくる同時に、人類全般にその影響を及ぼしていることになるので、どんな小さな想念行為でもゆるがせにできないのであります。

私はこの真理をよく知っておりますので、個人と人類が同時に救われなければ、世界は平和になることはないと言っているのです。個人個人の想念の在り方を問題にしないでいて、世界平和も戦争は嫌だもあるものではありません。戦争が嫌な人は、先ず自己の想念を、平和な調和したものにしておくことを心がけなければいけません。

戦争反対を叫び、世界平和を叫びながら、その運動を闘争という名で呼んだりしている団体や、自己の団体の権力を強めることのみを全力を挙げていて、大自然の法則そのものである、調和の精神を踏みにじっている宗教団体などがあることそのものが、暗黒業想念の所産なのであります。個人の平安と世界人類の平和を達成する為には、憎悪や妬みや権力欲等々の業想念波、暗黒想念波動を、大光明波動によって浄めさらなければなりません。

## 心の光明化は環境の光明化

個人が自己の運命を改善するには、自己の運命の上に現われている、自分の欲しない状態、例えば病気や貧乏や恨みや妬みや恐怖の想いなどの不調和な状態を、自分の心から放す練習をしなければなりません。そうした自己の欲しない状態を自己の上から放つ為にはどうしたらよいのでしょうか。

それは、潜在意識と顕在意識とにかかわらず、自己の運命環境に現われた状態は、自己の想念波動の上に必ずあるのでありますから、これは自分の想いの中にこういう運命環境になるべき原因があるのだ、と思いを明らかにして、自己の想念を明るい幸せな方向にむけてしまうことが大事なのです。

どうすればよいかといいますと、今、自己に現われている現象は、すべて過去世から現在に至る誤った想念の消えてゆく姿だ、と思つて、改めて新しく、自己の欲する状態や想念を出してゆけばよいのです。しかし、いちいち自己の欲する状態を考え出してはいる余裕はありません。

そこで、積極的に、世界人類の平和を願うという、自己にとつても人類全部にとつても、一番根本の問題である、世界平和の祈りの中に自己の天命<sup>まこと</sup>の完<sup>ま</sup>うされることの願いと共に、自己の全想念を投入してしまうことに想いを定めるのです。そして自分の心に現在の環境に対する不平や、自己の性癖に対する不満が起る度に、その不平不満を、世界平和の祈りの中に、消えてゆく姿として入れてしまうようにするのであります。

そう致しますと、いつの間にか知らぬ間に、自己の想念波動が、明るい調和したものに变化していつて、平安な感情になつてまいります。すると、それにつれて生活環境も明るく幸せなものに次第に変つてくるのであります。

これは当然なことであります。何故かと申しますと、自己の出していた想念波動で知らぬ間に自己の運命をつくりあげていたのですから、その想念波動が、世界人類の平和を祈るというような、明るい大きな広いひびきに變つた以上、世界

平和の祈りに叶った明るい大らかな平安な環境が生まれてくるのは、大自然の法則の通りなのであります。

まして、世界平和の祈りというのは、大救世主を中心とした救世の神々の大光明波動から生まれてきた祈りなので、この祈り言に想いの波長を合わせれば、救世の大光明波動は、その人の霊体れいたに幽体ゆたいに肉体にひびきわたって、その人の環境を光明化し、その人の周囲を光明波動で照してくれるのであります。

この世もあの世も、すべて神のみ心と想念波動とでできているので、その想念波動が、神のみ心のひびきに合致すれば、その人の心は光明化するにきまっているのです。そしてその人の心が光明化すれば、その人の環境も光明化してくることは理の当然なのであります。

こうして個人が光明化することは、それがそのまま人類全般の上にも影響を及ぼすことになるので、それだけ地球上の暗黒想念が浄まることになるのです。

### 想念の浄化運動が主体

私たちのやっている世界平和の祈りの運動は、想念波動の浄化ということが主であるわけで、世界人類の想念波動が浄

枝葉末節的な小さな自我欲望を出していると、自己も人類も、暗黒想念波動に巻きこまれていって、遂には破壊滅してしまわねばならなくなります。自分の方が正しいのだ、自国の方が正義なのだ、という正義のやりとりも、そのやりとりによって、お互いの心に怒りや憎しみの想念が湧きあがるようなものであったら、その正義観は、もう神のみ心そのものではなくなっているのです。

このところを世の指導者たちは心をいたさなければいけないと思います。地球を滅亡させてしまつて、なんの正義でもありません。自国の利益も人類の利益も共に消滅してしまつてあります。

人類の生命を尊重するのは、直接相手を傷つけ痛めなければよいというだけではなく、相手の生命を生き生きとさせてやる、ということにあるのです。お互いの生命が、神のみ心のままに生き生きと働けるような、お互いの天命が完うされるような、そういう個人であり、そういう国家であるように、私たちは、自他共にならなければいけないのです。

それには何度も繰り返さすようですが、世界平和の祈りが大事なのであります。世界人類が平和でありますように、私たちの天命が完うされますように、という祈り心が大事なのであります。

まらなければ、世界平和は決してできるものではない、と思つているわけです。

物質欲や権力欲で対立している場合は、それそのものが誤りであることはすぐ判りますが、思想と思想との対立というものは、どちらの思想にも、それぞれの理がありまして、それぞれの思想に同感するものが、お互いに相対した集団となつてくるので、どちらにも理がありながら、結果的には、世界を二分し三分してしまう不調和想念波動を世界中に流してしまうのであります。

これは宗教団体の場合にも全く同じことがいえるので、自己集団の教えを固執こしつしていますと、教えそのものは別に悪くないとしても、神のみ心の一番根本のものである大調和精神に反して、他宗団との不調和をきたすのです。

世界平和の祈りの運動精神は、すべての想念事柄を、ひとまず、神のみ心そのものである、大調和の中に入れきつてしまおうとする運動なのであります。各自各国、種々様々な思想ややり方があるではありませんが、一番大事なことは、この地球世界を滅亡させないことにあるのですから、枝葉末節的な方法や手段は後廻しにして、世界平和という人類の大願目の中に、一人でも一国でも多くの人々の想念を結集してゆかねばならぬと思つているのです。

世界中の想念を、ひとまず、完全平和を願う祈り心に結集してしまつて、何事にもまして大事なのです。各国各人の損得はその後で話し合えばよいことなのです。世界中の人たちの誰一人として望んでいない地球の滅亡に追いやるような、第三次大戦の勃発はつぱつを防ぐことこそ、何国何民族であろうとも、人間一人一人の大きな責任である筈です。

### 人類の一人としての責任を自覚しよう

その大きな責任を果すためには、自分たちの欲望はひとまず後廻しにしてもよいではありませんか、地球が滅びてしまつて、一体どこで自己の欲望を果そうというのでしょうか。自分一人ぐらい何をしたとて、世界人類となんのかかわりもないなどと思つていることは、とんでもない間違いです。

人間一人一人の想念行為が、今日程大事な時は他の時代にはなかったのです。前から申しておりますように、一人の人間の想念が暗黒想念(自分勝手な欲望)であるか、光明波動(愛と真の心)であるかによって、世界人類の運命は、滅亡にも完全平和にもなり得るのであります。

昔からいわれる宗教の極意である、善にも悪にも把われず、今日このままをすべて素直に受けてゆこう、今日このままの

姿は、つけ足すところも、減ずるところもない、神のみ心そのままの世界なのだ、という教えを更に一步進んで、実在世界の完全円満な相を、世界平和の祈り言を通して、一日も早く、しかも、最少の苦悩の経験によつて、この世に顕現せしめよう、という、大救世主のみ心を、私はこの肉体を通して、多くの人々に宣布実践しているのであります。

今日、世界平和の祈りが、日本において生まれ出でたことこそ、神のみ心そのものでありまして、この祈り心によつて、世界人類の暗黒的業想念波動が、次第に光明波動に浄められてゆくのであります。どうぞ皆さんもこの真理をよく噛みしめられて、より一層世界平和の祈りの運動に邁進していただきたいのであります。

五井昌久著『神は沈黙していない』より